

高島・手宮地区 ブロック別学校再編プランの 検討のために

この資料は、地区別懇談会で参加者間の活発な意見交換ができるようにという観点で作成したものです。



ブロックの概要

町名

祝津、赤岩、高島、手宮、末広町、梅ヶ枝町、錦町、清水町、豊川町、石山町、色内3丁目

通学区域から見た現在の学校配置

小学校 祝津小学校、高島小学校、北手宮小学校、手宮西小学校、手宮小学校
中学校 北山中学校、末広中学校

町別学齢人口（27年度推計）

（人）

	小学生							中学生			
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	小計	1年生	2年生	3年生	小計
祝津	21	17	18	18	13	22	109	18	18	22	58
赤岩	15	16	17	17	20	18	103	24	26	23	73
高島	14	16	10	22	11	20	93	25	20	22	67
手宮	5	2	3	9	0	7	26	5	7	4	16
末広町	7	8	9	8	12	13	57	9	10	9	28
梅ヶ枝町	7	10	3	4	5	7	36	3	9	7	19
錦町	5	1	2	4	1	7	20	5	3	3	11
清水町	5	8	5	8	6	3	35	12	9	6	27
豊川町	3	3	4	4	5	8	27	4	5	8	17
石山町	7	3	0	8	4	8	30	6	5	3	14
色内3	1	1	1	1	3	0	7	1	1	1	3
計	90	85	72	103	80	113	543	112	113	108	333

小樽市小中学校再編計画では、学校再編に当たっては次のとおりに進めるとしました。（抜粋）

- ◆ 統合の時期は、学校施設の状況、対象校の位置関係、統合前の児童生徒の交流期間等を総合的に考慮し、地区実施計画を策定し決めていきます。その際、同一地区内で、段階的な実施となる場合は、児童生徒が統廃合を繰り返して経験することのないような間隔とします。
- ◆ 統合学校は、原則として、既存の学校敷地、校舎を活用していくこととし、校舎が近年、改修・建て替えをしている場合を除き、大規模改修・建て替え時に合わせた施設設備の充実を図ることを基本とします。
- ◆ 統合学校の場所は、統合後の通学区域内のバランスと、校地・校舎の状況や通学上の安全などの条件を勘案して決定します。その際には、交通の利便性や冬期における周辺の除雪体制など、学校立地の条件としてより良好な環境であるかの観点も考慮します。
- ◆ 特別支援学級などについては、統合する時点での学級を確保し、統合学校に引き続き設置します。また、支援を必要とする児童生徒が新たに入学する場合は、原則として再編後の校区内の学校に就学できるよう配慮します。
- ◆ 学校再編に伴い、在学中に統合することになる学校への入学予定者については、再編後の新たな通学区域や通学距離を考慮した特例を、また、統合の時点での在學生についても、交友関係や通学距離などを考慮した特例を設け、指定校変更の承認をするなど学校指定に関する弾力的な運用を行います。

小学校の概要

各項目の数値は平成 21 年度現在のものです。

		祝津小学校	高島小学校	北手宮小学校	手宮西小学校	手宮小学校
学校の規模等						
児童数	通常	14 人	377 人	55 人	129 人	127 人
	特別支援		5 人	2 人	2 人	1 人
学級数	通常	3 学級	12 学級	5 学級	6 学級	6 学級
	特別支援		3 学級	2 学級	1 学級	1 学級
開校年月		明治 9 年 10 月	明治 17 年 11 月	昭和 5 年 10 月	明治 42 年 4 月	明治 34 年 4 月
学校施設						
現校舎の建築年 (面積)		昭 63 (2202 ㎡)	昭 56 (912 ㎡)	昭 54 (3053 ㎡)	平 4 (4223 ㎡)	昭 39 (4569 ㎡)
			昭 57 (1888 ㎡)			
			昭 58 (2328 ㎡)			
耐震化優先度 (校舎)			④-1	④-1		①-4
保有教室の内訳 (普通教室には学級増で転用想定も含む)	普通	6 教室	21 教室	9 教室	10 教室	18 教室
	特別	7 教室	9 教室	7 教室	7 教室	9 教室
体育館面積	㎡	842 ㎡	998 ㎡	606 ㎡	1,092 ㎡	705 ㎡
グラウンド実面積	㎡	4,900 ㎡	8,800 ㎡	5,800 ㎡	9,000 ㎡	4,500 ㎡
通学環境						
隣接校との距離 (km)		高島小 (1.2)	祝津小 (1.2) 北手宮小 (1.2) 手宮小 (1.4)	手宮西小 (0.7) 手宮小 (0.9) 高島小 (1.2)	北手宮小 (0.7) 手宮小 (0.7) 色内小 (1.0) 長橋小 (1.3)	手宮西小 (0.7) 北手宮小 (0.9) 高島小 (1.4)
在校生の最長通 学距離	(km)	祝津 2 (2.7)	高島 3 (1.6)	赤岩 1 (1.0)	錦町 4 (1.2)	手宮 3 (1.2)
最寄りのバス停		祝津 3 丁目 (450m)	赤岩 (270m) ことぶき団地入口 (260m)	北手宮小学校 (250m)	清水町 (430m)	常盤通 (690m) 済生会小樽病院 (400m)
進学する中学校		北山中	北山中、末広中	北山中	末広中	末広中
その他						
ブロック内他校と 比較した特記事項		完全複式編制	プール設置	複式編制		建築後 40 年超 給食自校実施
				給食自校実施		

中学校の概要

各項目の数値は平成 21 年度現在のものです。

		北山中学校	末広中学校
学校の規模等			
生徒数	通常	205 人	191 人
	特別支援	1 人	1 人
学級数	通常	6 学級	6 学級
	特別支援	1 学級	1 学級
開校年月		昭和 22 年 5 月	昭和 22 年 5 月
学校施設			
現校舎の建築年 (面積)		昭 33 (2670 m ²)	昭 55 (1936 m ²)
		昭 35 (686 m ²)	
		昭 36 (405 m ²)	昭 56 (2280 m ²)
		昭 49 (603 m ²)	
耐震化優先度 (校舎)		③-2、④-2	②-1
保有教室の内訳 (普通教室には学級 増で転用想定も含む)	普通	13 教室	普通 11 教室
	特別	14 教室	特別 13 教室
体育館面積	m ²	749 m ²	1,043 m ²
グラウンド実面積	m ²	9,000 m ²	6,300 m ²
通学環境			
隣接校との距離 (km)		末広中 (1.6)	北山中 (1.6) 西陵中 (2.7)
在校生の最長通 学距離 (km)		祝津 3 (3.3)	石山町 45 (2.4)
最寄りのバス停		北山中学校下 (530m)	手宮 (950m) 常盤通 (1060m)
通学時バス利用者		14 人	
校区の小学校		祝津小、高島小、北手宮小	高島小、手宮西小、手宮小
その他			
ブロック内他校と 比較した特記事項		給食自校実施	給食自校実施
		建築後 40 年超	手宮公園の一部 (5,600 m ²) 利用
			敷地内市道縦貫



統合の組合せの考え方

すべての小中学校が再編の対象となり、学校再編計画で示したこのブロックの想定学校数は小学校2校、中学校1校です。

ブロック内には5校の小学校がありますが、祝津小学校と手宮地区の3校は複式校あるいは完全単学級なので、小学校は隣接する2校あるいは3校の組合せによる統合となります。

このブロックの地理的な特徴から、北部と南部のバランスをとって統合校を配置することが望ましいことから、祝津から高島方面のエリア（Aグループ）と手宮方面のエリア（Bグループ）の2つの組み合わせとします。

現在の学校配置から、Aグループは祝津小、高島小の組合せとし、Bグループは北手宮小、手宮西小、手宮小の組合せとしながら、それぞれの校区をベースにして新しい通学区域と統合校の位置を検討したプランとパターンを示します。

中学校は、ブロック内で1校の配置ですから、小学校の新しい2つの校区を合わせた校区とし、小学校敷地の活用を含めた統合校の位置を検討したパターンを示します。



小学校のプラン1

現在の校区をもとにした、AグループとBグループの組合せ

組合せグループ	新しい通学区域	統合校の位置	パターン
Aグループ	祝津小、高島小の校区全域	現在の祝津小	①
		現在の高島小	②
Bグループ	北手宮小、手宮西小、手宮小の校区全域	現在の北手宮小	③
		現在の手宮西小	④
		現在の手宮小	⑤

パターン	27年度児童数と学級数の推計	最遠地点からの概算距離 (主要道路経由)	大きな改修の必要性
A _グ -①(祝津小)	284人 11学級	赤岩1 3.7km	増築
A _グ -②(高島小)		祝津3 2.3km	耐震化工事
B _グ -③(北手宮小)	257人 9学級	手宮3 1.9km	耐震化工事
B _グ -④(手宮西小)		手宮3 2.4km	
B _グ -⑤(手宮小)		清水町21 1.8km	建て替えが必要

プラン1の場合の27年度推計学年別内訳

(人)

プラン1		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
Aグループ	児童数	47	47	42	52	40	56	284
	学級数	2	2	2	2	1	2	11
Bグループ	児童数	42	37	30	51	39	58	257
	学級数	2	1	1	2	1	2	9



小学校のプラン2

Aグループ（2校）とBグループ（3校）の組合せとしたプラン1を基本にしながら、AグループとBグループに分断される赤岩1丁目を、すべてAグループに含めた組合せ

組合せグループ	新しい通学区域	統合校の位置	パターン
Aグループ	・ 祝津小、高島小の校区全域 ・ 赤岩1丁目の北手宮小校区	現在の祝津小	⑥
		現在の高島小	⑦
Bグループ	・ 手宮西小、手宮小の校区全域 ・ 赤岩1丁目を除いた北手宮小校区	現在の北手宮小	⑧
		現在の手宮西小	⑨
		現在の手宮小	⑩

パターン	27年度児童数 と学級数の推計	最遠地点からの概算距離 (主要道路経由)	大きな改修の必要性
A _グ -⑥(祝津小)	305人 12学級	赤岩1 3.7km	増築 (プラン1のパターン①と同じ)
A _グ -⑦(高島小)		祝津3 2.3km	耐震化工事 (プラン1のパターン②と同じ)
B _グ -⑧(北手宮小)	236人 8学級	手宮3 1.9km	耐震化工事 (プラン1のパターン③と同じ)
B _グ -⑨(手宮西小)		手宮3 2.4km	
B _グ -⑩(手宮小)		清水町21 1.8km	建て替えが必要 (プラン1のパターン⑤と同じ)

プラン2の場合の27年度推計学年別内訳

(人)

プラン2		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
Aグループ	児童数	50	49	45	57	44	60	305
	学級数	2	2	2	2	2	2	12
Bグループ	児童数	39	35	27	46	35	54	236
	学級数	1	1	1	2	1	2	8

小学校のプラン3

赤岩1丁目全域を含めたAグループ（2校）とBグループ（3校）の組合せとしたプラン2を基本にしながら、国道・道道から手宮側の稲穂5丁目と色内3丁目の色内小学校の校区となっている地区をBグループに編入

組合せグループ	新しい通学区域	統合校の位置	パターン
Aグループ (プラン2と同じ)	・ 祝津小、高島小の校区全域 ・ 赤岩1丁目の北手宮小校区	現在の祝津小	⑥
		現在の高島小	⑦
Bグループ	・ 手宮西小、手宮小の校区全域 ・ 赤岩1丁目を除いた北手宮小校区 ・ 色内小校区の内の稲穂5丁目、色内3丁目	現在の北手宮小	⑪
		現在の手宮西小	⑫
		現在の手宮小	⑬
		現在の色内小	⑭

パターン	27年度児童数 と学級数の推計	最遠地点からの概算距離 (主要道路経由)	大きな改修の必要性
B _{グループ} -⑪ (北手宮小)	313人 12学級	稲穂5 2.5km	耐震化工事、増築
B _{グループ} -⑫ (手宮西小)		手宮3 2.4km	増築
B _{グループ} -⑬ (手宮小)		稲穂5 2.0km	建て替えが必要 (プラン1のパターン⑤と同じ)
B _{グループ} -⑭ (色内小)		手宮3 2.6km	建て替えが必要

プラン3の場合の27年度推計学年別内訳

(人)

プラン3		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
Aグループ (プラン2と同じ)	児童数	50	49	45	57	44	60	305
	学級数	2	2	2	2	2	2	12
Bグループ	児童数	47	52	42	55	52	65	313
	学級数	2	2	2	2	2	2	12

中学校のプラン 1

現在の2校の校区をもとにした場合
の新しい通学区域
(小学校のプラン1、2に対応)

	新しい通学区域	統合校の位置	パターン
統合新校	北山中、末広中の校区全域	現在の北山中	①
		現在の末広中	②
		現在の北手宮小	③
		現在の手宮西小	④
		現在の手宮小	⑤

パターン	27年度生徒数 と学級数の推計	最遠地点からの概算距離 (主要道路経由)	大きな改修の必要性
①(北山中)	333人 10学級	石山町6 2.6km	建て替え
②(末広中)		祝津3 4.1km	耐震化工事
③(北手宮小)		祝津3 3.7km	耐震化工事、中学校に改修
④(手宮西小)		祝津3 4.6km	中学校に改修
⑤(手宮小)		祝津3 4.8km	新築

中学校プラン1の場合の27年度推計学年別内訳 (人)

中プラン1		1年	2年	3年	計
統合新校	生徒数	112	113	108	333
	学級数	4	3	3	10

中学校のプラン2

現在の2校の校区に現西陵中校区の一部（稲穂5、色内3丁目）を加えた場合の新しい通学区域
（小学校のプラン3に対応）

	新しい通学区域	統合校の位置	パターン
統合新校	<ul style="list-style-type: none"> 北山中、末広中の校区全域 西陵中校区の内の稲穂5丁目、色内3丁目 	現在の北山中	⑥
		現在の末広中	⑦
		現在の北手宮小	⑧
		現在の手宮西小	⑨
		現在の手宮小	⑩
		※現在の色内小の場所も新しい通学区域内に立地していますが、ブロック内での位置関係から検討のパターンから除外します。	

パターン	27年度生徒数と学級数の推計	最遠地点からの概算距離 （主要道路経由）	大きな改修の必要性
⑥（北山中）	369人 11学級	稲穂5 3.2km	建て替え
⑦（末広中）		祝津3 4.1km	耐震化工事
⑧（北手宮小）		祝津3 3.7km	耐震化工事、中学校に改修
⑨（手宮西小）		祝津3 4.6km	中学校に改修
⑩（手宮小）		祝津3 4.8km	新築

中学校プラン2の場合の27年度推計学年別内訳

（人）

中プラン2		1年	2年	3年	計
統合新校	生徒数	125	125	119	369
	学級数	4	4	3	11

プランとパターンから見た場合の検討結果

小学校Aグループ（祝津小・高島小）

学校規模等からの検討（H27）	プラン1	・児童数 284 人、学級数は 5 年生が 1 学級、その他の学年はすべて 2 学級の 11 学級となります。なお、1 学級当たりの平均人数は 25.8 人。
	プラン2	・Bグループの一部（赤岩 1 丁目の北手宮小校区）をAグループに編入しますので、児童数 305 人、すべての学年で 2 学級の学級数の 12 学級となります。なお、1 学級当たりの平均人数は 25.4 人。
	プラン3	・プラン3は、上記2と同じです。
通学距離からの検討	現在の最長通学距離は、祝津小 2.7km、高島小 1.6km となっています。	
	プラン1	・統合校の位置を祝津小とした場合の最長通学距離（最遠地点からの距離）は 3.7km、高島小とした場合は 2.3km となります。
	プラン2	・統合校の位置を祝津小とした場合の最長通学距離（最遠地点からの距離）は 3.7km、高島小とした場合は 2.3km となります。
プラン3	・プラン3は、上記2と同じです。	
施設面からの検討	<ul style="list-style-type: none"> ・祝津小学校は、昭和 63 年建築で、耐震基準を満たしていますが、普通教室の保有教室は 6 教室ですから、統合校とするためには大規模な増築が必要となります。 ・高島小学校は、築 30 年程度で、校舎は耐震補強工事が必要ですが、体育館は耐震基準を満たしています。 ・グラウンド面積は、祝津小 4,900 m²、高島小 8,800 m²です。また、高島小には温水プールが設置されています。 	

- ◆ Aグループは、祝津小学校と高島小学校の校区とBグループの一部（赤岩 1 丁目の北手宮小校区）を含めた4つのパターン（①②⑥⑦）を検討しています。

- ◆ 統合校は、学校施設の規模や児童の居住分布から、高島小学校の校舎を耐震化した上で使用することが適切です。
- ◆ 祝津小学校の校区から高島小学校までの最長通学距離は 2.3km となるため、スクールバスまたは通学バス助成等の通学支援策が必要になります。
- ◆ 赤岩 1 丁目（北手宮小校区）の A グループへの編入は、B グループの統合校の場所にもよりますが、現状でも、このエリアから高島小学校までは 1.2km、（北手宮小学校までの通学距離は 0.8km）であることから、現状でも北手宮小学校から高島小学校への指定校変更のケースがあり、A グループへの編入が適切です。また、このことにより 12 学級規模の学級編制が可能となります。



小学校 B グループ（北手宮小・手宮西小・手宮小）

学校規模等からの検討（H27）	プラン 1	・児童数 257 人、学級数は 1・4・6 年生が 2 学級となりますが、2・3・5 年生は 1 学級の計 9 学級となります。なお、1 学級当たりの平均人数は 28.6 人。
	プラン 2	・赤岩 1 丁目の北手宮小校区を A グループに編入しますので、児童数 236 人、学級数は 4・6 年生が 2 学級となりますが、1・2・3・5 年生は 1 学級の計 8 学級となります。なお、1 学級当たりの平均人数は 29.5 人。
	プラン 3	・赤岩 1 丁目の北手宮小校区を A グループに編入するとともに、隣接する中央・山手地区の色内小校区内の稲穂 5 丁目、色内 3 丁目もこの地区に編入しますので、児童数 313 人、すべての学年が 2 学級の計 12 学級となります。なお、1 学級当たりの平均人数は 26.1 人。
通学距離からの検討	現在の最長通学距離は、北手宮小 1.0km、手宮西小 1.2km、手宮小 1.2km、（隣接ブロックの）色内小 1.2km となっています。	
	プラン 1	統合校の位置を北手宮小とした場合の最長通学距離（最遠地点からの距離）は 1.9km、手宮西小とした場合は 2.4km、手宮小とした場合は 1.8km となります。
	プラン 2	統合校の位置を北手宮小とした場合の最長通学距離（最遠地点からの距離）は 1.9km、手宮西小とした場合は 2.4km、手宮小とした場合は 1.8km となります。
	プラン 3	統合校の位置を北手宮小とした場合の最長通学距離（最遠地点からの距離）は 2.5km、手宮西小とした場合は 2.4km、手宮小とした場合は 2.0km、色内小とした場合は 2.6km となります。

- ・ 北手宮小学校は、築 30 年程度で耐震補強が必要です。また普通教室の保有数も 9 教室で、組合せによっては教室の増設が必要です。
- ・ 手宮西小学校は、平成 4 年の建築で耐震基準を満たしています。普通教室数は 10 教室ですから、組合せによっては教室の増設が必要です。
- ・ 手宮小学校は、築 45 年を経過しており、建て替えが必要となります。
- ・ 色内小学校（プラン 3 の場合）は、体育館は耐震基準を満たしていますが、校舎のほとんどは築 50 年を超えており建て替えが必要です。
- ・ グラウンド面積は、北手宮小 5,800 m²、手宮西小 9,000 m²、手宮小 4,500 m²、色内小 2,700 m²です。

- ◆ 小学校の B グループは、手宮地区の 3 校を基本に、北手宮小校区の一部を A グループへ、色内小校区の一部（稲穂 5 丁目、色内 3 丁目）を B グループに編入した 10 パターン（③～⑤、⑧～⑭）を検討しました。
- ◆ 学校規模から見ると、プラン 1 と 2 は 10 学級に満たない組合せですが、プラン 3 では 12 学級となっています。
- ◆ 統合校の位置は、B グループの学校位置関係や児童の居住分布から、このブロックの中心部に位置する手宮西小学校と手宮小学校の 2 か所を対象に検討することが適切です。
- ◆ 学校施設の状況からは、現状のまま使用する場合は、手宮西小学校は耐震基準を満たし、さらに体育館やグラウンドの面積から適切と考えられます。
- ◆ 通学経路の面からは、北手宮小学校付近や色内小校区からの通学を想定した場合、統合校の位置は手宮小学校を選択した方が適切と考えられます。
- ◆ この高島・手宮地区ブロックの小中学校の再編は、現在の中学校の配置から、5 ページの「統合の組合せの考え方」で述べたように、ブロック内の小学校の再編と併せて中学校の統合校の位置についての検討が必要です。

中学校の統合校（北山中・末広中）

- | | |
|-------|---|
| プラン 1 | ・ 生徒数 333 人、学級数は 1 年生が 4 学級、2・3 年生は 3 学級の 10 学級となります。なお、1 学級当たりの平均人数は 33.3 人。 |
| プラン 2 | ・ このプランは、小学校のプラン 3 に対応するもので、隣接する中央・山手地区の西陵中校区内の稲穂 5 丁目、色内 3 丁目をこの地区に編入するため、生徒数 369 人、学級数は 1・2 年生が 4 学級、3 年生は 3 学級の計 11 学級となります。なお、1 学級当たりの平均人数は 33.5 人。 |

通学距離からの検討	現在の最長通学距離は、北山中 3.3km、末広中 2.4km で、祝津 3 丁目から北山中への通学はバス助成の対象となっています。
	<p>プラン 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 統合校の位置を北山中とした場合の最長通学距離（最遠地点からの距離）は 2.6km、末広中とした場合は 4.1km となります。また、小学校を使用した場合では、北手宮小 3.7km、手宮西小 4.6km、手宮小 4.8km となります。
	<p>プラン 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 統合校の位置を北山中とした場合の最長通学距離（最遠地点からの距離）は 3.2km、末広中とした場合は 4.1km となります。また、小学校を使用した場合では、北手宮小 3.7km、手宮西小 4.6km、手宮小 4.8km となります。
施設面からの検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北山中中学校は、築 50 年を超えており、建て替えが必要です。 ・ 末広中学校は、体育館は耐震基準を満たしていますが、校舎は耐震補強が必要です。 ・ 北手宮小学校は、築 30 年程度ですが校舎と体育館の耐震補強工事と保有教室数が不足しているため増築が必要です。 ・ グラウンド面積は、北山中 9,000 m²、末広中 6,300 m²です。

- ◆ 中学校のプランでは、統合校の位置に手宮地区の小学校を含めたパターンとしていますが、校区が広くなるため、遠距離の場合はバス利用が必要です。そのため、通学の利便性に重点を置いた配置が望ましく、このブロックの特徴として、小学校のBグループの統合校の位置と密接に関連付けた検討が重要です。

- ◆ 以上の小学校と中学校のプランの検討結果から、小学校のプランでは、必要な改修を行ったうえでAグループは高島小学校とすることが適切です。また、Bグループと中学校の統合校の位置は、手宮西小学校と手宮小学校のいずれかを候補としてあげます。

小のBグループと中学校の関係	手宮西小学校	手宮小学校
小学校とする場合	そのまま使用	建て替え
中学校とする場合	中学校に改修	中学校新築

小学校のプラン3と中学校のプラン2を選択する場合は、「中央・山手地区ブロック」で現在の色内小学校と西陵中学校の校区変更を伴いますので、同ブロックの学校再編との調整が必要です。